



テレビCM
放映中!!

吉本興業と コラボレーション!!

11月20日、けんしんと吉本興業ホールディングス株式会社が包括連携協定を結びました。地方創生の取組みについて双方の得意分野を生かして協力をしていこうというものです。当日は、吉本興業ホールディングス株式会社 専務取締役 エリア事業統括/株式会社よしもとエリアアクション 代表取締役社長 泉正隆様と吉野理事長が協定書を取り交わしました。ご来賓として財務省九州財務局より局長 大津俊哉様を始め、大分県及び各市町村のマイナンバーカード担当者の皆様にもご出席いただきました。さらに特別ゲストとして、吉本興業所属の石田靖様、大分県住みます芸人の野良レンジャーのお二人も会場に花を添えて下さいました。野良レンジャーのお二人が出演するテレビCMも12月から放映中です。



自然を
生かし、
守ること

- 1 特集/TOP INTERVIEW
株式会社 松秀
久大林産 株式会社
オーベルジュ 楓乃木
- 4 キラリ、新風力 ふわり、爽風力
- 5 けんしん同友会企業紹介
- 7 けんしんTOPICS



新旧の歴史が混在する別府にリゾートの風を吹かせ続ける

リゾートホテルの進出が相次ぐ別府で、30年以上に渡って『潮騒の宿 晴海』を営み、国内外から訪れる客をもてなし続けている。かつて企業や文化人の別荘が立ち並んでいた上人ヶ浜で、廃業した旅館を借りて開業。当時は『青海』という名前だった。『晴海』としたのは平成6年のことで、以来、現在まで進化し続けてきた。

ガラス越しに別府湾を望み、圧倒的なリゾート感を演出するロビーに迎えられるホテルは、晴の棟、海の棟、そして令和元年夏にオープンした空の棟にそれぞれに趣向を凝らしたラグジュアリーな部屋をしつらえ、全室に温泉を完備。もともと大切にしてきたこのプライベート感がコロナ禍でなお支持され、予約が絶えない宿となっている。一般客も利用できる食事処は、旬も伝統も味わえる「日本料理玄」、新鮮な魚介類を堪能できる「海鮮料理いいたろう」、カジュアルにフレンチを楽しむ



旅館業を営む前はジャズ喫茶の店主だった久保社長。今もロビーコンサートを企画するのが楽しめたと言っている。

右／別府湾に溶け込むような大浴場「潮騒の湯」
下／海の幸、山の幸に恵まれた大分の食を堪能させてくれる



める「ビストロヴァンヌーヴォ」の3つあり、いずれも大分県産食材をふんだんに取り入れている。季節ごとにメニューが変わるなど、いつ訪ねても新しい味に出合えて新鮮。人生の節目となるハレの日に訪れる人も多い。また、食事の利用客は無料で大浴場に立ち寄れるのも魅力。客室の温泉とはまた違った趣のある「潮騒の湯」は、海とひと続きになったような開放感がたまらなく気持ち良い。

「埋め立てされていない手付かずの浜が残っていたことが魅力でした」と、旅館業を始めた頃を回想する久保力夫社長。平成28年は、ホテルからその上人ヶ浜で結ばれた敷地に『GAHAMAterrace』を新築した。久留米の絋王・

別府・日出同友会

[旅館業]
株式会社 松秀
代表取締役 久保 力夫氏

DATA
〒 別府市上人ヶ浜町6-24
☎ 0977-66-3680
🕒 IN15:00 OUT11:00
📞 不定休 📍あり
<https://www.seikai.co.jp>



『晴海』の客室はアジアリゾートテイスト。温泉付きの豪華な造り



「GAHAMAterrace」の敷地内には当時の趣を伝える茶室が残る。イベントなどにも利用可能

国武氏の別荘、そして九州電力の保養所という歴史を辿った昭和初期の建物を取り壊す話が浮上したため、ここを買い取り、歴史を残しながら和モダンな旅館をつくり上げたのである。ところが、その開業直前に熊本地震で被災。1ヶ月ほど営業停止を余儀なくされた。地震当日、『晴海』では国内外からの宿泊客の安全確保に全力を尽くしたが、その時に活躍したのがアルバイトの留学生たち。のちに留学生たちを正規雇用するようになり、館内は今、国際色豊かだ。

「地震の日に宿泊されていたハワイのお客さまが、数年後に訪ねてきてくれたときは本当に嬉しかったですね」と笑顔で振り返る久保社長。その目線の先には観光地・別府の未来も見据えながら、これから次世代のために今できることをし続けて行くと言う。「よく成功の秘訣を聞かれますが、お客さまに満足していただけることを皆で追及するだけなんです」。

未来の林業に繋ぐため 労働環境改善に尽力

国有林の管理を請け負っていた前身の会社の流れを汲み、平成8年から現在に至る『久大林産』となった。この頃から、植林、下草刈り、間伐、伐採、出荷まで森林づくりの循環を一手に担うようになり、県内でいち早く林業機械を導入したことで有名。現在もAIやIoTの技術を駆使した未来の林業のあり方を模索している。そのきっかけとなったのが、平成3年、久大地域の林業に未曾有の被害をもたらした台風19号だったと言う。

今でこそ、伐採から長さを揃える玉切りまで行う「ハーベスタ」や、運搬車両「フォワーダー」などが活躍する林業の現場だが、同じ自然相手でも早くから機械の導入が行われた農業とは異なり、近年まで作業のすべてを人力に頼ってきた。必然的に作業場所が斜面地となるため、機械を投入するのが

伐倒し、長さを揃える玉切りの作業を終え集材したところ



植林の様子。植付後、獣害防止のためツリーシールドで丁寧に被覆する



大分の林業界をリードし、若手からベテランまで、様々な人材が活躍する「久大林産」

撤出後、再造林のために地掃えをする。一連の作業に多くの林業機械を導入

久大同友会

[総合林業]
久大林産 株式会社
代表取締役 工藤 洋一氏

DATA
〒 玖珠郡九重町野上3452
☎ 0973-73-4350
🕒 8:30~17:00
📞 日曜 📍あり
<http://www.kyudairinsan.jp>



「山には葉草などもたくさんある。それを活用したビジネスも産めるかもしれない」と可能性を語る工藤社長

難しいうえ、かなり高額だからだ。

ところが平成3年の台風により、日田だけで人工林の2割にあたる8800ヘクタールが崩壊。その伐採にのぞんだ同業者が何人も命を失い、工藤洋一社長は「このままでは命がいくつあっても足りない」と痛感したと言う。その前年、熊本県で開催された展示会で林業機械を目にしていたため、積極的に機械を購入しようと決意。大分県内で最初に林業機械を導入した企業の一つとなり、森を守ると同時に、人の命を守るための努力も重ねてきた。

こうした先進的事例が評価され、平成30年には全国林業経営推奨行事の農林水産大臣賞を受賞。地域林業の発展を目的に結成された「結衣の会」の会長として、現在も植林用機械の開発や、作業員の位置を把握し危険を察知するとアラームで警告するシステムなど、ハイスペックな手法を試行錯誤している。作業によっては無人化も視野に入れているそうだ。「5年後には林業のあり方が変わってくる」と言う。

そこまで林業の労働環境改善に力

を入れてきたのは、人材確保のため、そして地域の未来のため。「高卒の学生本人が林業に携わることに意欲的でも、ご両親に反対されることもある。危険な林業のイメージを払拭しなければ、未来に繋いで行けないのです」と語り、「ドローンで測量もできるようになっている時代、若手の知恵をどんどん取り入れたい」と期待もしている。今後は、間伐材などを破碎したチップを燃料とするバイオマス発電所も建設が続く。日ごと、未来の林業に近づいている。森の循環を守るとは、まちの美しい景観と環境を守ること。「自分が暮らす地域に誇りを持てるような地域づくりに携わって行きたい」と夢あふれる工藤社長だ。



内湯と露天風呂があり、どちらからも庭の景色を望む



冬、雪化粧の耶馬溪は滅多にお目にかかれない絶景



右/耶馬溪の食材も、フレンチならではの食材も登場する美食をワインとともに提供 左/森の中に佇む隠れ家的なオーベルジュ

深耶馬溪の中の自然と共生するオーベルジュ

奇岩奇峰が連なる風景が続き、まるで水墨画に描かれるような世界が広がる耶馬溪は、文化庁の「日本遺産」にも認定された県内屈指の景勝地。特に『一目八景』や、モミジのトンネルが100mに渡って続く『ひさしもみじ』が有名な深耶馬溪には、紅葉、新緑の美しさを愛でようと、毎年多くの観光客が訪れる。『オーベルジュ 楓乃木』は、そんな深耶馬溪の玄関口にあり、絶景の一部となって佇んでいる。

宿は、「老舗の旅館ばかりが残る名所に新しいスタイルの宿を」との思いから、小畑吉太郎氏が平成7年にオープンさせた。オーベルジュとは、フランス語で郊外の宿泊付きレストランという意味。耶馬溪のメインストリートに面しながら、喧騒とは無縁の森の中。そこで待っているのは、ここでしか出会えない魅力の数々だ。まずは、ワインを傾けながらいただく「耶馬溪キュージーヌ」。本場フランスでの修業を経験したシェフが、耶馬溪の食材を生かした料理を中心に、目でも舌でも味わえる美食を提供してくれる。そして、源泉かけ流しの湯。やや褐色に色づいたこの土地独特の単純アルカリ泉は、保湿効果があるというメタケイ酸をたっぷりと含んだ美肌の湯と名高い。ちなみに温泉は、立ち寄りでも入浴できる。さら

に、何と云っても素晴らしいのが深耶馬溪の景観。約2万坪に及ぶ広大な宿の敷地自体がその一部であり、小畑氏はその自然を守るように手をかけ、管理してきた。自生するシャクナゲ、ミツバツツジ、ゲンカイツツジをそのまま庭園に生かしつつ、山野草を移植して増やしたり。手付かずの植栽を適度に刈り込んだところ、虫も舞い戻ってきたという。宿泊者は庭から専用の散策道を歩いて自由に景色を眺めることができる。小畑氏のおすすめは、早朝に一目八景まで散策すること。「生まれたばかりの太陽が少しずつ奇岩を染めて行く様子が、耶馬溪で最も美しい風景です」。

そんな自然と馴染むように、竹で編まれた照明などが宿のそこかしこを照らしている、素朴ながら上質なオーベルジュ。小畑氏の思いが込められた庭はどの客室からも眺めることができ、

中津・下毛同友会

[旅館業]

オーベルジュ 楓乃木
代表 小畑 吉太郎氏

DATA

〒中津市耶馬溪町深耶馬3189 ☎0979-55-2222
IN16:00 OUT10:00
火曜※年末年始、5・11月の連休中は営業
あり https://yabakei-funoki.net

心ゆくまでのんびりと寛ぐことができる。宿泊の予約は一体など各種宿泊予約サイトから可能。料理を主体としたさまざまなプランが用意されている。紅葉や新緑の季節が注目されがちだが、小畑氏は「いつ訪れても美しい」と言う。シャクナゲが咲き誇り虫舞う初夏も、ひぐらしの声が情緒を醸す夏も。一度と言わず四季折々に訪ねたいものだ。

「今できることを未来のために」と、自然を守りながら宿を営む小畑氏



飲食店の次なる夢はビリヤードを普及させること



ひのでグリル
代表 川本 比呂志さん



おひとりさまの女性もふらりと立ち寄るといふ肩肘張らない店

DATA

[飲食業]

ひのでグリル

〒中津市日ノ出町1-350-13 ☎0979-53-9929

営12:00~15:00/18:00~24:00
金・土曜12:00~15:00/18:00~26:00
祝前日・年末年始・お盆12:00~15:00/
18:00~26:00、祝日12:00~15:00

休日曜 あり

https://www.facebook.com/hinodegrill/

JR中津駅に隣接する日ノ出町商店街に店をオープンして2年目。九州産の黒毛和牛をはじめとする上質な塊肉のグリルをメインに、野菜を使った一品料理やラクレットチーズなどズラリとメニューを取り揃えており、扱うドリンクも豊富。お酒のシメに味わいたいスイーツは県産食材を使った手作りの味、コーヒーも厳選されたスペシャルティコーヒーをエスプレッソマシンで淹れる本格派…と隅々までこだわりが詰まっている。それでいて価格もリーズナブルとあって昼夜問わずお客さんの胃袋をガッツリと掴んでいる。ランチの人気メニューは、A5ランクの九州産和牛をグリルした「和牛赤身ステーキ」。また看板商品となりつつあるのが「ひのでカレー」で、自慢の和牛をこっくりと煮込んだ贅沢な味が人気を呼んでいるとか。現在、2周年を記念して特

別価格で500円(税別)で提供しているのは「コロナ禍でそれぞれ苦しい思いをしている時期、たくさんの人に喜んでもらえたら嬉しい」という気持ちからだ。

オーナーの川本比呂志さんは、実は日本プロポケットビリヤード連盟公認のトーナメントプロ。店の2階では、食事とお酒を楽しみながらビリヤードやダーツをプレーすることもできる。店が軌道に乗れば、レッスンを行いながら地方にビリヤードを普及させたいと語る川本さん。自身がプロになれるまでの経験を振り返り、「夢は言葉にして周囲に伝えることが大切。そうすれば、応援してくれる人、協力してくれる人が必ずいるはずですから」と、いつか、中津でトーナメントを開催したいというさらなる夢を抱いている。店に通うお客さん一人ひとりがすでに、川本さんの応援者だ。

キラリ新風力 ふわり爽風力

老舗市場として 森を育て、守る生産にも参入

日田市では、今から約500年前の江戸時代に林業が始まった。その歴史の中で、森林の生産業者から市場、製材所まで効率よく分業するシステムが整い、脈々とまちの産業として息づいてきた。『九州木材市場』が創業したのは、昭和35年。日田市内に7件残る市場の一つであり、令和2年で60周年を迎えた老舗だ。

市場の役割は、山から伐り出された丸太の原木を長さ、末口の直径、曲がり具合によって細かく選別し、その種類ごとに高く積み上げる「はい積み」の作業をすること。『九州木材市場』にも、日々県内外の産地や自社の山から原木が運ばれてきて、月に2回、入札が行われている。扱った丸太の量が全国ト

ップクラスを誇るため、「ここなら求める国産材が手に入るだろう」と、各地から関係者が買い付けにやってくる。顧客の要望に応えようと努力した結果が、信頼に結びついている。

以前は本社が国道212号沿いにあったが、平成28年、多くの林業関係企業が集まるウッドコンビナート内に移転。近年は木材の生産にも積極的に参入しており、将来的には、2万ヘクタールに及ぶ山の確保を目指している。田中昇吾社長は、「木を植えて商品になるまで50年の月日を必要とします。林業人口が減っている今、商品としての丸太を確保すること、そして生産に関わることで山を保全したいという思いがあります」と語る。一方で、有志で立ち上げた『日田林家』という団体に参加し、林業を身近に感じてもらうための活動も行いながら、これからも山と向き合い続ける。



株式会社 九州木材市場
代表取締役 田中 昇吾さん



原木の取り扱量は全国トップクラスを誇る

DATA

[木材卸売業]

株式会社 九州木材市場
〒日田市東有田1205-10 ☎0973-24-3625
営8:00~17:00
休日曜 あり
http://kyumoku.deci.jp/

尿素水製造・販売業

株式会社 J-Blue 大分

注目の「高濃度尿素水」を造る大分初、日本でもわずかな企業



環境問題に貢献すべく「知名度を高め、九州一円に販路を拡大したい」と意気込んでいます。

温室効果ガスの削減を義務付ける京都議定書が採択されて以降、ディーゼルエンジンを搭載した車種の排気ガス規制が厳しくなった。この問題をクリアするために日本でも積極的に導入され始めたのが、排気ガス中の窒素酸化物に尿素を添加し、窒素と水素に分解する尿素SCRシステム。『J-Blue大分』では、そのために必要な高濃度尿素水を製造・販売している。扱っているのは、ドイツ自動車工業会に認証された「AdBlue®」という高品質の商品で、これを自社製造している企業は日本でもわずか。直売できるため安価なこと、そしてフットワークの軽さも強みである。商品は5～1000リットルまで数種類。詳しくはお問い合わせを。

本社
速見郡日出町川崎
4830-18-A105
☎ 0977-76-8868
携帯 080-9339-9548
🕒 9:00～17:00
📅 休土・日曜、祝日 📍あり
🌐 <https://www.j-blue-oita.co.jp>
E-mail: toshiaki7770331@yahoo.co.jp
AdBlue製造工場
速見郡日出町大字
大神字尾ノ辻8133-11



旅館業

株式会社 しがね

里山の原風景に溶け込む大人の湯宿



秋の紅葉、初夏の新緑の美しさは格別。ただただゆっくりと過ごす贅沢が味わえる

八面山の裾野に佇む『こがね山荘』は、里山の静寂に包まれた大人の宿。周囲の自然に溶け込むような敷地には和洋8室の客室と内風呂付きの離れが4棟点在し、どこまでもゆったりと寛ぐことができる。シンと空気の澄んだ冬、緑萌える新緑など季節それぞれの趣を楽しめるのが最大の醍醐味だ。隣接する『金色温泉館』やレストラン『香露庵』は宿泊客以外でも利用可能。和風庭園の中につくられた露天風呂や家族風呂は、柔らかな湯はもちろん、四季折々の風情にも癒されると評判だ。レストランで味わえるのは、中津特産のハモや大分名物の豊後牛などに旬の食材を合わせた創作料理。リーズナブルなランチも提供している。

📍 中津市三光田口字金色584-1
☎ お宿こがね山荘0979-26-8066
金色温泉館0979-26-8065
🕒 IN15:00 OUT10:00
金色温泉館10:00～22:00
※家族風呂10:00～21:00、
香露庵11:30～14:30
(LO14:00)/17:00～
21:00(LO19:30)
※土・日曜、祝日11:30～
15:00(LO14:30)/17:00
～21:00(LO19:30)、
要予約 📅なし 📍あり
<https://koganesansou.com>



呉服店、不動産業など

有限会社 みやざき呉服店

呉服屋として培った価値観をさまざまな商機に生かす



着物からまちづくりのご相談までお気軽にどうぞ！

先代が今から約50年前に創業。別府駅前のビルの一隅に店舗を構え、人々の人生の節目に寄り添ってきた。時代に合わせて商売の形は変化を続け、呉服屋にとどまらず不動産業にも参入。まちづくりに関わる様々な役も担いながら、近年はAPUの留学生と出会い、自社で2名を採用。彼らの故郷・ネパールへも足を運び、IT技術を日本からネパールへアウトソーシングする事業にも着手した。店舗の一部にはオンラインミーティング用の設備なども整えている。業務は多業種に渡るが、「日本の文化を大切にしたい」と語る。宮崎省三社長だ。

📍 別府市駅前本町1-4
☎ 0977-23-1100
🕒 10:00～18:00
📅 木曜、日曜不定休あり 📍あり
🌐 <https://www.miyazaki529.com/>



惣菜製造業

有限会社 ふく屋

いつでも、どんな人にも！胃袋を喜ばせる惣菜店



JR由布院駅の正面から伸びる由布見通り沿いにある。けんしん湯布院支店のおすすめは「チキン南蛮弁当」

昭和47年に創業してまもなく半世紀を迎える弁当と惣菜の店。令和の時代に入し、装いはリニューアルしたものの味はそのまま健在だ。名物は「いも天」。季節ごとに最適の甘さが出る品種を選んだり、家で食べる人には揚げたてのように美味しく食べるためのひと手間を伝えたりするなど、こだわりが詰まっている。遠方で暮らす家族が帰省する際に買い求める常連さんもいるそうで、地元の人々にとっては故郷の味となっているようだ。店は湯布院駅に近く観光客も多いため、散策途中に食べやすいよう唐揚げやとり天はカップでも提供。ランチ時にはビジネス客の姿も並ぶ。さまざまなシーンに大活躍なので、ぜひお立ち寄り。



📍 湯布院市湯布院町川上
2939-6
☎ 0977-84-3410
🕒 10:00～17:00
📅 水曜 📍あり



石材加工業

泉石材店

中津城下町の栄華と面影を伝える石材店



中津城の外堀沿いにある。時代が変わっても「ご先祖様を思い感謝する気持ちは忘れないでほしい」と泉社長

中津城の城下町の一角にあたる北堀川町には、かつて港があり、荷物を中継する運上場が存在した。ここから米や木材が大阪へ運ばれて行き、帰路となる各地で城の修繕などに使う石を積んで帰ってきたため、石材店が多く軒を連ねていたとか。その技を受け継ぐ初代が昭和初期に独立創業したのが『泉石材店』。現在は3代目の泉幸一社長が暖簾を守る、同町で唯一の石材店だ。墓の新築や修繕を主な業務とするが、核家族化や高齢化が進み、近年は墓じまいの需要も増加中。時代のニーズに応えながら、自治会長や閻無浜神社の年番町、中津市の消防団長等も務める社長は「皆が楽しく過ごせる活気ある“まち”にしたいですね」と方々で活躍中だ。

📍 中津市北堀川342
☎ 0979-22-3593
🕒 不定
📅 不定 📍あり



旅館業

いろはにほへ陶

四季折々の大自然に囲まれた完全プライベートな貸別荘



「塚原の魅力を知ってほしい」と語るオーナーの藤澤桂子さんは、湯布院塚原高原観光協会を立ち上げ、会長を務めた

四季折々に美しい姿を見せてくれる塚原高原。そのロケーションに魅せられてギャラリー喫茶を開いたのが始まり。その後「ほちほち」「ほどほど」「びんびん」というユニークな名前が付けられた3棟の貸別荘が完成し、若者から年配の方まで、多くの人々が大自然の休日をごしに訪れている。インターネットで予約し、当日受付を済ませたらあとは完全にプライベートな時間。家族で、あるいは友人と食材を持ち込み、調理をしながら暮らすように滞在を楽しむことができる。冬は、薪ストーブに火を焚きながらのんびりと語り合ったり、満点の星空を眺めたり。誰かに伝えたい塚原の魅力を見つけに、出かけてみませんか？



📍 湯布院市湯布院町塚原1217-109
☎ 0977-85-4888
🕒 IN15:00 OUT10:00
📅 不定 📍あり
<https://www.irohanihohtou.com>

